

次号予告

とびら.....	水俣湯之児リハセンター	池田俊雄
特集=老人		
日本の老人の統計.....	厚生省	田中 莊司
PTの地域活動.....	都補装具研究所	遠藤 文雄
特養老人ホームにおけるPTの役割.....	青陽園	香川 幸次郎
特養老人におけるOTの役割.....	悲田院老人ホーム	松下 起士
	府中療育センター	小島 政茂
老人と職業.....	都心障者職業センター	原田 豊治
資料：米国の老人.....	府中リハ学院	鈴木 明子
講座		
運動学シリーズI「歩行」(1).....	都養育院	松村 秩
チームの中のPT・OT		
座談会/STとPT・OT.....	神奈川リハセンター	佐藤 馨・他
資料		
第9回PT・OT 国家試験問題(II)		
Q and A.....	A：九州リハ大	佐藤 剛
	Q：九州リハ大	キャロライン・オーエン
メディカルプロGRESS.....	七沢病院	横山 巖
	岡山大学病院	明石 謙

編集後記

謹賀新年

PT・OT 教育の特集をお届けする。色々の角度より追っているので誰方にも何等かの考える材料が含まれているようである。過去に、この種のトピックスで編集された本誌を読み比較してみると、着実に我国でもPT・OT教育の考え方が前進している事は確かである。PT・OT法施行より10年、あらゆる意味で1つの転換を迎えている。奈良勲氏のとびら“臨床指導者の哲学”がこの号の意図とするところをとらえている。最近単に臨床経験が3年なので臨床指導者という好ましからぬ風潮が強いがこれはあくまでもそれに適した人の最低規準であり、あらゆる角度より見て臨床経験が10年あっても不適な人を認めるとそのような方に指導を受けねばならぬ学生は惨めである。勿論量も必要であろうが新しい専門職の発展その社会的地位の確立には質が重要である事は云うまでもな

い。養成校を出たばかりの方々が堂々とチームで病院で治療に従事している事が現状ではあるが肌寒さを覚える。それほどに質の良し悪しははっきりと患者にわからない分野なのであろうか。

欧米諸国では最近臨床実習は Clinical Affiliation として clinical supervisor と educational (academic) supervisor とのペアが学生を指導している傾向が増えている。将来我国でも人材が豊富になればこのような形での supervision も考えられるべきであろう。“他力本願”ではなく“棚ボタ”でもなく自分達の事は自分達でという自覚がもっとPT・OTに芽生えて戴きたい。昭和50年度より高知リハ学院が4年制カリキュラムに変更になるが4年制大学→大学院と教師確保の道を考えねばならぬ時代に来ている。教育の問題に関して読者の方々よりも御意見をどしどし御寄せ戴きたい。今年がPT・OTの分野で更に飛躍の年でありますように願う次第である。

(荻島秀男)

<編集顧問>

天児民和
九州労災病院長
五味重春
府中リハビリ学院長
砂原茂一
国立療養所東京病院長
津山直一
東京大学教授・整形外科
水野祥太郎
川崎医科大学学長
(五十音順、以下同じ)

<編集委員>

上田敏
東大リハビリ部
荻島秀男
都養育院リハビリ部
佐藤馨
神奈川リハセンター
鈴木明子
府中リハビリ学院
谷岡淳
自治医科大学
田村美枝子
清瀬リハビリ学院
寺山久美子
都心障センター
松村秩
都養育院リハビリ部

<編集同人>

明石謙
大井淑雄
大川嗣雄
大橋博
鎌倉矩子
紀伊克昌
小林夏子
駒沢治夫
佐藤剛
田原澄彦
富岡詔子
奈良勲
藤沢しげ子
藤本欽也
前田守
松本妙子
矢谷令子
山下隆昭
横山巖
和才嘉昭
(担当 細田・松橋)